

H21年の総括と次年度の活動展開に向けて

発行：後志農業改良普及センター

平成21年度の営農は、記録的な天候異変から冷湿害等の影響を受けて、北海道全体では約600億円の農業被害を受けました。渦中、後志管内も過酷な気象条件下にあったものの、紙一重・綱渡り状態で切り抜け、作物被害を最小限に留めたことは、一重に農家の皆さんの努力であったと敬意を表す次第です。ご苦労様でした。



さて、平成17年度にスタートさせた普及活動計画も5カ年が経過して本年度が最終年となりました。この間、重点地域・重点農家の皆さんとともに導き出した活動の成果については、その都度、普及センターのホームページで広く紹介しているところではあります。インターネットを利用されていない農家の皆さんには、紙面をもって普及活動の成果・情報をお伝えしているところです。この度は、この5カ年の歩みの一端を紹介します。皆さんの身近にも経営改善の成果・成功例が沢山あります。「良い」と思うことは、積極的に取り入れていって下さい。



平成22年度からは、新たな構想計画(5か年間)を樹立して、新たなテーマで普及活動を展開して行きます。

「地域に責任を持つ、重点対象農家に責任を持つ」事を基本として、各地域系のスタッフが重点農家の皆さんと力を結集して得た重点対象地域の成果を隣接地域・市町村へ波及する普及活動を実践・展開しますので、ご期待下さい。これからも「情報ネット後志」は、そんな身近な情報を皆さんにお知らせします。



5年間の重点課題の成果紹介

後志管内は北海道農業の縮図と呼ばれ、水稲・畑作・野菜・果樹・畜産など特徴ある農業が展開されています。普及センターでは、それぞれの地域が抱える課題を解決すべく、重点農家とともに7つの重点課題に取り組んできました。計画作成時に重点農家と5年後の経営目標を共有化し、そこに向かって課題解決を積み重ねてきました。

その成果については、収量・品質向上に結びつく栽培技術の改善、肥料費など生産コストの低減、複合経営での労働分散・省力化、安全・安心への取り組みなど多岐に渡ります。今回は、それらの中から変化の見えてきたこと、成果の上だったものを紹介します。

めざせ!! 中規模(20ha)畑作・野菜経営の安定化 【倶知安町】担当：本所調整係

4年輪作で男爵薯の生産性は向上!

今回5年間の活動から、4年輪作はジャガイモシストセンチュウを低密度に抑え、安定的に収益性の高い男爵薯の作付を可能にすることがわかりました。

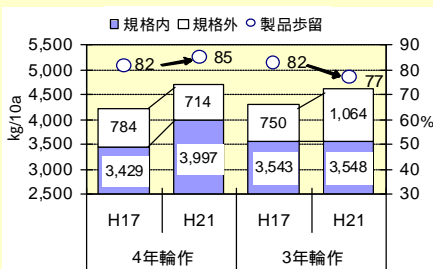


図1 男爵薯の収量変化

4年輪作氏 4年輪作を肌で実感! 収量が上がった!

作付バランスを見直したら、見かけはあるけどクズが多いな...。線虫密度に応じてほ場ごとに対策をしなきゃ!

3年輪作氏

ジャガイモシストセンチュウ対策は、抵抗性品種(とうや・キタアカリ等)の作付が最も有効です。

小さい事からコツコツ!

農薬や化学肥料の使用量を減らすために研修会やFAX等で定期的な情報発信を行ってきました。

全畑作物で化成肥料からBB肥料へ転換 発生予察防除等、コスト低減意欲は高くなりました。

効果の高い薬剤を上手に使うと、疫病を抑えられ、防除回数を減らすことができました。

疫病のコストは高くなったけど、ほかで安価な薬剤を適期に使ったら、馬鈴しょの総コストが抑えられたよ!

こまめにほ場を見て歩いたら、防除回数を減らせたよ!

どこまで経費が抑えられたか財布が気になります。

土壤改善と転作作物の振興で収益の高い稲作経営を！ 【蘭越町】担当：本所地域第1係

排水改善と技術改善で生産性と付加価値のアップ

転作畑の排水改善は、水田地帯の課題です。平成17年より、生産者とともに透排水性と生産技術の改善を図ることで、大豆収量が向上し（210kg/10a以上 0 4戸）新規露地野菜（南瓜、スイートコーン、ブロッコリー）の導入もなされました。また、トマトの収量も高まっています（6,800 8,600kg/10a）。一方、基幹作物である水

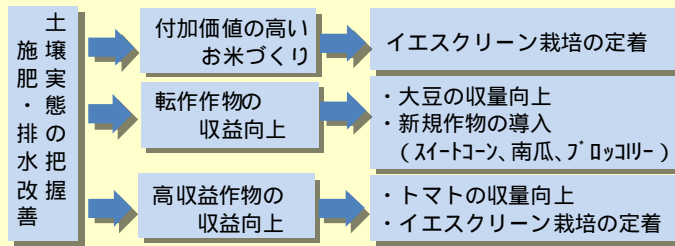


図1 5ヶ年の活動経過

稲は土壤分析結果に基づく適正な施肥と適期防除により、イエスクリーン栽培が定着してきています。

生産者の努力に手応えあり

5ヶ年の活動の中で、「排水改善により生育ばかりでなく、機械の作業性も向上した」「もっと転作畑で収益を上げたい」「トマトも経験と勘だけの栽培ではいけない」「水稻イエスクリーン栽培でも収量・品質は維持出来る。一般栽培でも応用したい」などの声が聞かれ、生産者の努力と活動の手応えを感じます。



進化し続ける「らいでん」ブランド！！ 【共和町】担当：本所地域第2係

赤肉メロン「SDR-01」で作型・労働競合を分散

食味が良好で市場評価の高い「SDR-01」の導入に伴い、新品種に適した施肥量や整枝法などの栽培技術の実証・提示を進めてきました。生産者からは「栽培管理に気を使う面もあるが、食味が良く、緑肉より単価も高いので、今後も栽培を続けたい」という声が聞かれ、徐々に地域に定着してきました。現在、重点地区の作付比率は35%と作型構成の改善が進んでいます。

「SDR-01」の定着は作型の分散と緑肉メロンの過作解消につながり、他作物の管理労力、メロン全体の販売環境の改善が図られ、安定生産と所得の向上に寄与しています。



生育状況確認中

良食味米産地の確立と稲わら搬出へのチャレンジ

低タンパク米安定生産のため、良食味で多収な「ななつぼし」の作付拡大と、土壤断面調査にもとづく具体的な改善方策の提示・実証を進めてきました。

重点地区の「ななつぼし」作付比率は50%となり、100%「ななつぼし」に切り替える農家もでてきました。また、栽培技術が改善されたことで、低タンパク米の安定生産を実現しました。活動の成果は町全体に波及し、商品価値の高い米産地として評価が向上し、所得の確保につながっています。

さらに良食味米の安定生産につなげようと、稲わらの搬出と有効活用を図る取り組みがスタートしました。



稲わら収集実演会

真っ白いゆりね生産、効果的な輪作で安定経営をめざせ！ 【真狩村】担当：本所地域第3係

真っ白い良質な「ゆりね」づくり！

土壤の苦土成分の改善が進んだこと、ピートモスなどの資材を使用し「さび症」が軽減したことで、A品率が向上し、真っ白い良質なゆりね生産が進んできました。

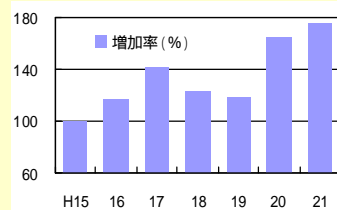


図1 ピートモス使用量変化

特にピートモス施用は、従来のサンドイッチ方式ではなく球根下への全量施用などの簡易方法や、より省力化を目指した施用機が検討され、村内への波及が期待されています。

土壤病害を考慮した効果的な「輪作」！

根菜類（大根・馬鈴しょ等）の重要土壤病害となる線虫やパーティシリウム菌と各作物との関係が理解され、効果的な輪作が進んできました。

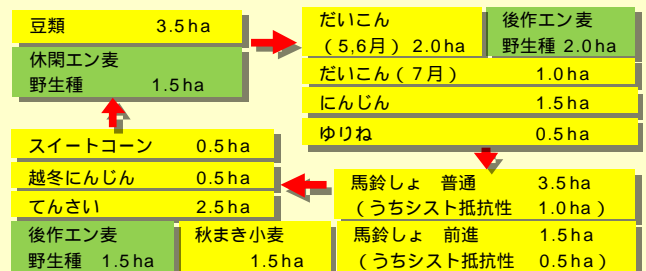


図2 効果的な輪作 (20ha)



ピートモス施用でA品率がアップした。資材費はかかるけど「さび症」が減れば採算は合う。それに「さび症」が減ると選別はスムーズだし精神的にも楽だね。



輪作の見直しで土壤病害減少へ！イネ科を入れた4年輪作。そしてジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種や緑肥（エン麦野生種）を栽培し、各種の線虫を減らすことがポイントだね。

基本に立ち返り乳質改善

バルク（貯乳槽）内の生乳をスクリーニング検査し、汚染原因を究明しました。また、関係機関と連携のもと戸別に搾乳時に立会し、搾乳手順を徹底的に見直し、搾乳器具の衛生管理の改善を行いました。

取り組みの中には多量に使う乳頭清拭用のタオルは「おしぼりレンタル業者」の廃品を利用するなど、生産者の工夫も多くあります。

開始から4年で生菌数は約70%減少し、現在も維持しています。

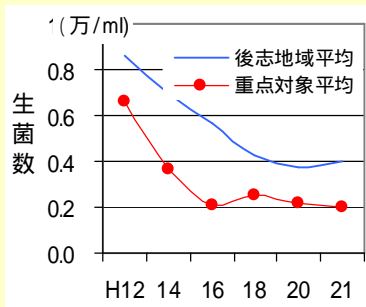


図1 生乳中の生菌数の推移

とうもろこしサイレージの生産量確保で自給率向上

高品質飼料の十分な給与を目的に飼料の自給率向上を目指し取り組んでいます。

当地区の飼料畑は粘質土壌で排水が悪く、礫や石を多く含むため、プラウ耕起が難しく、牧草栽培が主でした。しかし、近年の穀物価格の高騰により、とうもろこしサイレージの生産量を確保するため、不耕起は種機の利用、品種選定や除草剤処理方法の改善に取り組み、通年給与が可能になってきました。

また、より消化吸収が良くなるコーンクラッシャーを装備した収穫機械を共同で購入利用し、作業を受託する組織もできました。



生産の効率化と作業環境改善でいきいき野菜づくり 【余市町】担当：北後志支所地域第1係

「科学的根拠」でミニトマトの生産性が向上！！

ミニトマトにおける葉柄中の硝酸濃度や果実品質測定値を活用した生育診断にもとづく肥培管理を推進しました。H17年は50%の実施率でしたが、H20年からは全戸で実施されるようになり、実施の重要性が浸透し草勢に適した効率的追肥により、個々の硝酸濃度のバラツキが少なくなりました。その結果、肥培管理の適正化が図られ、収量レベルの底上げと対象者全戸の平均収量も約1t/10aの増加が図られています。

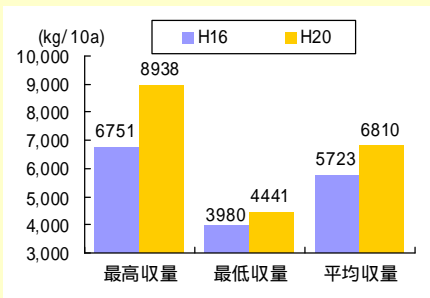


図1 ミニトマトの収量の変化

栽培法と環境改善により余裕ある作業労働へ！！

定植期の分散により、7～8月の収穫作業に余裕が生まれ、労働時間の平準化と7～9月の労働時間の節減が可能となりました。また、遮光資材の活用は生産者の評判も高く、労働環境の改善と雇用促進につながりました。



実証効果と利用方法を啓蒙資料として配布したり、農協と共催の研修会で、地域全体に周知した結果導入生産者が増えています。

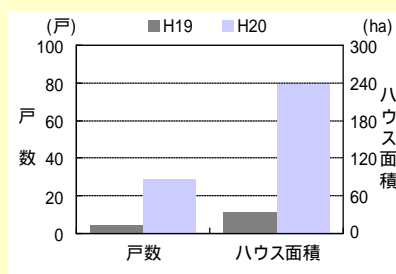


図2 遮光資材の導入状況

地域担い手の経営安定 【赤井川村】担当：北後志支所地域第2係

遊休農地活用と輪作推進で

ブロッコリーの品質アップ！

遊休農地活用や3年以上の輪作徹底を勧め、平成18年以降、根こぶ病被害はなくなりました。平成20年からは、品質低下が課題となっていた8月出荷の品質向上に向け、適期防除や追肥指導に取り組んでいます。

また、平成21年度よりGAP（農業生産工程管理手法）の導入について、生産者が取り組みやすいチェックリストを関係機関とともに作成し、普及推進を図っています。



追肥は大事だねー（ブロッコリーの現地研修会）

トルコギキョウの品質向上で売り上げアップ！

定植床設置や切り前の適正化、選花施設の照度改善による作業の効率化を図り、対象農家とともに検品体制システムを構築し、品質の向上を推進しました。

また平成19年度より、ネコブセンチュウや青カビ根腐病などの連作障害回避を目的とした土壌還元消毒の普及や、出荷時期を考慮した品種選定を支援しています。

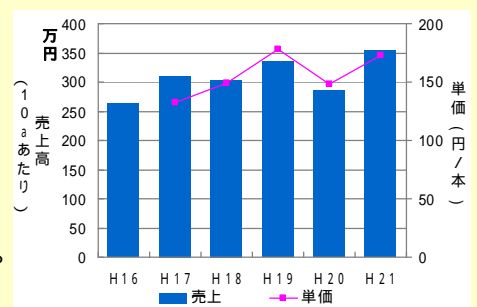


図1 トルコギキョウの売り上げの推移 (重点農家)

蘭越町の女性が取り組む「パートナーシップでつくる農村活性化支援事業」

この事業は、平成 20～22 年の 3 年間継続で、各支庁 1 カ所、意欲的な農村女性を応援する事を目的として農業改良普及センター、支庁、各関係機関が連携して行っています。

後志管内では蘭越町の女性 13 名を対象に「蘭越のPRと食育」をテーマに昨年からはスタートしました。

一年目は講習会や懇話会で、自分たちにもできる食育活動があるとわかりました。そこで、まずは「自分たちが作った地元の野菜を学校給食に使ってもらおう・・・」と関係各所に働きかけ、検討を重ね、今年から一部の野菜を納入できるようになりました。

二年目の本年は、子供だけではなく、一般消費者にも広く働きかけるために、テーマを絞って学習・検討会を行っています。テーマは「蘭越町に普及・定着させたい漬物」です。10月29日の検討会では、地域の漬物名人の人材発掘や蘭越町の資源の見直し、漬物技術伝えるための資料化など知恵を出し合いながら意見交換を行いました。また、基本的な食品加工の知識を学ぶために「食品加工における菌について」の学習を行いました。

意欲あふれる女性たちの今後の活動に期待はますます高まります。



北海道立食品加工研究センターによる講習会

果物PR・産地交流・専門講座で顔の見える関係づくり！

普及センターでは、「フルーツランドしりべし」グレードアップ事業（支庁独自事業）と連携し、果樹産地を支援しています。さくらんぼでは小樽の観光客を対象にアンケート調査やPRを実施、プルーンではコープさっぽろ会員

と産地の名人が園地交流や品種食べ比べを行い、西洋なしでは野菜ソムリエを対象に追熟を学ぶ講座を開催しました。

また、さくらんぼの園地診断やプルーンの機能性や品質調査、冬期は先進地の講師を招いて剪定講習を予定しています。顔の見える関係づくりと生産技術向上の両輪で、果樹産地の振興を図っていきます。



名人とめぐるプルーンガイド



赤レンガでの「西洋なし講座」

後志の有機農業推進に向けた支援活動！

21年度は、現地研修会、FAX 情報(後志有機通信)の提供、ホームページによる情報発信、有機農業セミナーへの参加、ネットワーク研修会(冬期予定)などを実施しました。なかでも、現地研修会は、後志有機農業のネットワークづくりの第一歩として実施し、生産者同士の情報交換を目的としました。参加者からは、「またこのような研修会を企画してほしい」、「技術や販売の情報がほしい」などの声を多数頂きました。今後も情報提供の場をつくり、有機農業の推進に努めていきます。



有機農業を志す人々！



みんなで意見交換！
(現地研修会 8月10日 積丹町)



支庁、普及センターによる有機農業者巡回
(5月27日 赤井川村)

後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭 57-1
TEL 0136-22-1072
FAX 0136-22-4744

南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内 309
TEL 0136-72-3161
FAX 0136-72-3456

北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町 11 番地 1
TEL 0135-22-5135
FAX 0135-22-5987